



# 鶏 けいめい 鳴

〒221-0864  
横浜市神奈川区菅田町 2851  
(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「イエス・キリストという既に捉えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません」聖書(第1コリント書3章11節)

牧師 河合裕志

パウロは「土台」ということを言っている。この前にもこう記している。「わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました」。

家を建てるには土台が大事。しっかりとした建物を立ち上げるためには基礎工事をおろそかに出来ない。この点は既にイエスの言っているところ。イエスは「山上の説教」の結びのところでA.賢い人とB.愚かな人の話をしている。Aは岩を土台として家を建てた。Bは砂の上に建てた。やがて「雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかる」。結果、Aの家は倒れなかったが、Bの家は倒壊してしまう。

とに角土台は大切。そしてパウロが据えた土台とは何か。ここではイエス・キリストという土台、これが教会という建物の土台だよ、と述べる。この土台を無視すれば教会という建造物はぐらつき、倒壊に至ると。

しかしキリストの教会なのにキリストという土台を無視するなんて一寸考えられない。そんなことあり得るのか。パウロがわざわざこう述べることにはそうした事態のあることを見ていたということではないだろうか。それはどんな事態。

パウロは前にこう言っていた。「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシャ人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキ

リストを宣べ伝えています」(第1コリント1・22~23)。「この十字架につけられたキリスト」が土台ということ、これを無視するとキリストの教会でなくなる。

ユダヤ人はしるしを求める。奇蹟を求める。現世利益を欲する。支配者ローマを追い出す力あるメシア(救世主)を望む。ギリシャ人は知恵を探す。高尚な哲学を求める。こうしたユダヤ人、ギリシャ人に受け入れられようとしてキリストの十字架は説かない、こうした恐れは常にある。

十字架を語ることは人間の罪を語ることになるので人々はこれを嫌った。せめてキリストの愛の人格とか隣人愛を説くキリストの話を知りたいと人は望む。この希望は受けてもよいけれど、それで終れば土台を据えたことにはならない。私達の罪が赦され、永遠の命をもたらすために十字架につけられたキリスト、この唯一無二の福音の上にキリストの教会は立つ。これを外せばキリスト教は一つの道徳、一つの哲学に終わってしまうことに。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時  
子どもの教会：日曜日午前9時  
求道者会：日曜日午前9時40分  
中高青年会：日曜日礼拝後  
お話し会、卓球：水曜日午後1時~7時  
お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時